

第3回 夕張市の再生方策に関する検討委員会 概要

【概要】

○夕張市地方版総合戦略について

事務局から現在策定中の夕張市地方版総合戦略について説明を行った。

○意見交換時に出た出席者からの主な意見

- ・今までのやり方をそのまま継続するだけでは、市全体が持続できない懸念があり、変化が必要。
- ・夕張市の財政再生計画は当初想定されていた規模・期間を超えたものである。
- ・変化の内容を議論する場合には、財源の問題と財政計画の制約の問題に直面する。
- ・財源の問題は、再生振替特例債の返済期限を延長し、単年度負担を軽減することで財源を捻出するという意見、何がしかの手段（国からの大規模な支援）等により、財政再生計画の期間を短縮するという意見、具体的な方法については明記せず、問題点のみを報告書で指摘するという意見等が提出された。
- ・現行の制度の枠組みの中では解決が難しい点を踏み込んで指摘するべき。
- ・事務局に対し、長期の収支を見通した「財源シミュレーション」の実施の要望があった。
- ・自治権回復のためには、市（長）に財政上の一定の裁量枠を与える等、自由度を高める方策を検討してはどうか。
- ・財政計画変更の事務手続きについて簡素化できる部分がないか検討してはどうか。
- ・後年度負担分の基金の積み立てについて検討が必要ではないか。
- ・「財政再生団体の脱却」と「再生振替特例債の返済」を分けることができないか。
- ・今後の人口減少の中では、財源の上振れは必ずしも期待できない。
- ・市の現状で改善する点としては、行政執行体制（給与・報酬、職員数）の改善、市税等に代表される市民負担の軽減、子ども子育て・教育分野におけるサービスの拡充が優先される。
- ・総合戦略で提示されている方策を検討し、具体的な再生方策として委員会として報告してはどうか。
- ・総合戦略の具現化のためには、財源の問題に行き着く。
- ・先の総合戦略のアウトフレームに提示されていたアクションプランの実施のために、どの程度の予算が必要なのか。
- ・行政体制の整備は最優先の課題との認識。
- ・職員数も来年度の見通しが厳しく、喫緊の課題。
- ・財政再生団体後の姿として、財政健全化条例のようなものを市が策定し、自らの規律を持ってはどうか。

以上